

りに容易な方法によつて、しかも頭上よりヘイズ山に近づこうとしたのだ。山の神が怒るのも無理はない。その罰として私達はスーシトナ氷河を歩かされたのだ。しかしそこで学んだことはどれだけ大きいことか。あの信じられない位に広いスノーフィールドで迎えの飛行機を今か今かと待つてゐる時、何者かが私達に語りかけていた。おまえ達の言う登山とは、少なくともここから始めるべきではなかつたかと………………。

(5) くちばしピーク登頂断念記

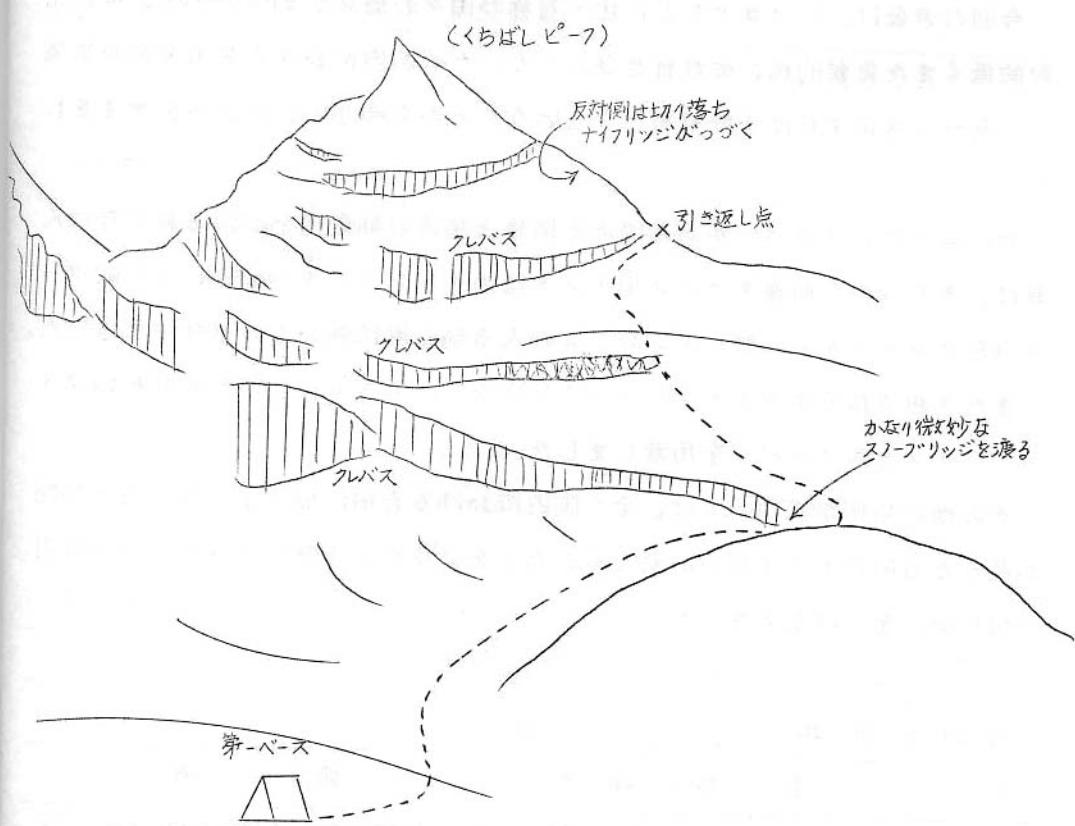
松 本 繁 文

7月11日昨日二次ベース設営への1回目のボッカを終え、A.M.2名は二次ベースに残り今日はヘイズ南稜前進キャンプへのルート考策残り3名は今日午前中2名で、くちばしピークを踏んだ後二次ベースへ残りの荷をボッカする予定であつた。

朝起きると曇空どうもいやな感じであるが、7時10分一次ベースを出発、クレバスもなくなんなく1つ目のコブの頭に着く8時、ここでルート考策のA.M.と交信、天候がおもわしくないためお互の行動を確認し合う、この先稜線に出て稜線上よりピークを踏むのが時間的に短じかくいいとのことでコブより稜線に向う。コブよりすぐ大きなクレバスが口を開けている。なるべく口の小さい所のスノーブリッジを、恐る恐る渡る、全くいやな感じである。それにつけ加え空の調子も悪い。しかし西の方面のガスの先がすいて青空が見えていたので天候の回復を願いながらさらに稜線へと進む途中小さなクレバスを越し、稜線直下の大きなクレバスに出る。このクレバスは越すには大きいためクレバスの口に沿つて稜線に出る。ここでちょうど9時交信の時間である。交信によると南稜を下から見て前進キャンプの予定にしていたバンドがひどいらしい。

こちらはあとは稜線上をピークに向うのみナイフリッジがきれいにピークにつづいている。しかしこの頃よりガスがひどくなり出したため天候の回復を待つことにする。

もうすぐ晴れるもうすぐ…………でみぞれが降りだしてきたため、あきらめ10時10分いそいでトレースを下る。一次ベース近くになるとみぞれが雨に



かわり若干ぬれて来た、しかし、走るように降り一次ベースに 10 時 45 分着。

昼食後一次ベース撤収、二次ベースへ最後のポッカに移る。